

院長 コラム

一緒に考えましょう

健康のこと
医療のこと

⑦①

子どもからはじめるがん教育



市民病院
院長 神谷里明

令和3年度から市内全ての小中学校で医師が関与したがん教育が始まりました。平成30年から一部の学校で試験的に開始し、昨年度から全校で実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症による一斉休校の影響もあり、昨年は中止となりました。

がんが死亡原因のトップになってからかなり経ちます。しかし、がんという言葉に対してネガティブな情報ばかりが前面に出て、がんの診断、治療における進歩はあまり報道されません。現在がんは早期に発見できればかなり高い確率で治すことが可能になってきています。進化した状態で見つかったも手術療法、放射線治療、抗がん剤治療を組み合わせることにより治療を目指したり生存期間を伸ばしたりすることができるようになってきました。全てのがん腫をまとめても6割以上の方が5年経過し

ても生存しています。決して不治の病ではないのです。しかしながら、世の中ではまだがんと診断されればほぼ死につながるようなとらえ方をされているようです。学校で授業を終えた後の感想では「今まで治らないと思っていたが、今日の授業で治るがんのほうが多いことを初めて知った」という意見が数多く見られました。まだ世の中ではこのように認識されているのだと改めて知りました。

がんと診断されるのが怖いから検診を受けないというアンケート結果もあります。がんは早期に発見できれば治る可能性の高い病気であるということを事実として知ってもらうことが大切だと思います。がんと診断されて非常に大きなショックを受ける人もいますし、治療に苦痛が伴うこともあります。また残念ながらがんが治癒せず亡くなる人もいます。そのような人たちに対してどのように接したらよいのかも子どもたちに伝えていきます。これから医療者から正確な知識を子どもたちに伝えることに、大人にも正確な知識が伝わることを願って、毎年授業を続けていきたいと思います。

